※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式１】

＜エントリーシート＞ ※事務局記入欄 No.：B － 3	部門 **多忙化改善部門**	学校名・氏名 **榛東村立榛東中学校　野口　賢太郎**
	活動名 **(主)確認時間を 10 分の１に短縮** **(副)バーコードの活用を通した授業改革**	

課題の設定：学校には、生徒の提出物がたくさんあります。例としては、朝の生活記録ノート、宿題、自主勉強、授業の準備物等です。現在それらの提出物は、係の生徒や教員が一つ一つ手作業で名簿に○をつけて、提出状況を確認しています。また、手作業の集計では、確認ミスが起きてしまったり、生徒の提出物の提出状況などの詳細な分析は行えず、提出物の確認のデータは有効に活用されていない現状があります。しかし、限られた勤務時間の中で、確認には多くの時間がかかり、日々の授業の準備に追われる中で、その提出物の確認は後回しにされがちです。また、授業中に発言してくれた生徒のチェックや持ち物チェックなどは、授業と授業の空き時間が 10 分しかなく、その限られた時間の中でそのようなチェックを行うことは、不可能と考えられていました。

方針・計画：提出物の確認にかかる時間を短縮すると共に、生徒の提出物等の出題状況を正確に把握することで、確認にかかる多忙化を改善し、その提出状況のデータを生徒の指導に活用することで、授業改善につなげられると考えました。また、授業時の持ち物や発表者のチェックを行い、それをきちんと評価など反映することで、授業にも導入することが可能と考えました。しかし、そのようなシステムは、現在どの業者も扱っていないため、市販のバーコードリーダーとパソコンの Excel のソフトを使って、課題提出物のチェックシステムを開発しました。

活動内容：

① 生徒自身が宿題提出コーナー(写真Ａ)で、バーコードリーダーで提出チェックをして、提出します。
② 教員がパソコンを操作し、提出物の提出状況を把握します。(多忙化改善)
③ 提出状況をデータで把握し、生徒の改善につなげます。(データの活用と評価)
④ 授業中や、授業間の休み時間を利用して、授業用セット（写真Ｂ）を用いて、生徒の持ち物チェックや発表者のチェックを行います。

活動の成果：

① バーコードリーダーを活用することで、放課後に行っていた宿題等の課題提出の確認の時間を 10 分の１に短縮できた。１５０人のチェックも１分ででき、確認ミスもなくなりました。(作業時間の短縮＝多忙化改善)
② 今までは、朝が宿題を提出しても、誰が提出できていないかを確認するのが、放課後になってしまうために、その日のうちに確認することが難しかったが、確認作業が一瞬でできてしまうために、朝の内に未提出者を把握でき、提出していない生徒にその日のうちに声かけができるようになりました。(作業時間短縮によるメリット)
③ 提出状況が正確に Excel のデータとして反映されるために、その後の指導に活用しやすい。提出状況から、生徒への指導や評価にもつながっていきました。(業務の ICT 化によるメリット)
④ 持ち物のチェックや発表者のチェックなどでは、その生徒の発表カードや持ち物のバーコードをチェックすることで簡単に行うことができ、成績に正しく反映することができました。(業務の ICT 化による生徒の評価への反映)

アピールポイント（アイディアや工夫）：

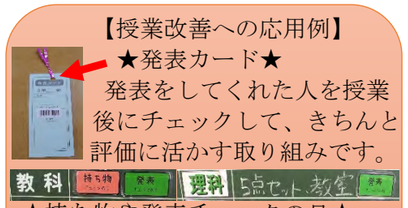
①市販のバーコードリーダー(３０００円)と、バーコード印刷ソフト(４０００円)と Excel が入っているパソコンがあれば、すぐに始められます。
②Excel の自作ソフトは、著作権はありませんので、どなたでも使用可能です。
③この方法を活用して、現在、発表カードや持ち物チェックの日の設定など、授業場面でのさらなる発展した活用方法も検討しています。まだまだ発展性があると思います。

＜生徒の準備すること＞

① バーコード印刷ソフトで印刷したバーコードのプリントを生徒に配布する。

②提出するワーク等の提出物にバーコードを貼る。

【授業改善への応用例】
★発表カード★
発表をしてくれた人を授業後にチェックして、きちんと評価に活かす取り組みです。



★持ち物や発表チェックの日★
持ち物や発表チェックの日を決めて、出来た生徒をきちんと評価する。

＜生徒の提出の仕方＞

② 生徒は、提出場所で、自分の提出物に貼っているバーコードを読み込ませて、提出場所に提出します。（写真Ａ自主勉強提出コーナー）また、提出されたものをまとめてチェックすることもできます。（写真Ｂ　授業用セット）

写真Ａ　自主勉強提出コーナー
(固定パソコンと、定置式バーコードリーダーのセット)

生徒は、自分でチェックをして、提出場所に提出する。

写真Ｂ　授業用セット
(タブレット PC とバーコードリーダーのセット)

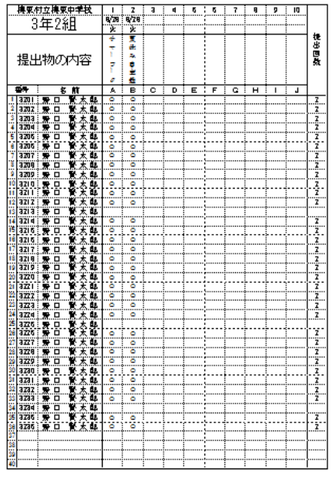
授業中や授業の前後でチェックをするのに使います。Excel が入っているタブレットなら使えます。

＜自作の提出物チェックシステム(Excel)の仕組み＞

④バーコードを読みとると、提出者の欄に自分の名前が表示されます。

⑤提出者のボタンを押すと、提出者のチェックができ、未提者のボタンを押すと、未提出者が表示されます。

⑥印刷はボタンを押すと、提出した生徒には、○がついており、提出状況をきちんと把握できます。



※未提出のボタンでは、未提出者が瞬時に把握できるため、提出いない人を把握するのにとても便利です。